

■1984年 8月20日 第三種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)発行 ■発行人

関西障害者定期刊行物協会

大阪市天王寺区真田山町2-2 東興ビル4F 定価100円

KSKP
NO.105施設のなかの
ぴかっとアート!

書道クラブ文化祭作品「歩く」

作:湖北タウンホーム 書道クラブ

書道クラブは月に2回活動しています。

この作品は文化祭のテーマ“ありがとう～感謝～いつしょに歩み続けよう”に合わせて入居者それぞれの方の“どう歩いていきたいか”を表現しています。

CONTENTS

- 2 特集 障害者にとっての優生学って何?!**
～新しい価値観を見つけていこう!～

- Part.2 障害が社会をつくる社会モデルとは?**
～実践者からのメッセージ～

- 4 お知らせ**
第20回湖北タウンホーム文化祭
平成29年度新卒者内定式

- 5 レポート**
親子療育キャンプ
平成29年度第50回全国肢体不自由児者父母の会連合会全国大会
- 6 インフォメーション**
大津圏域グループホーム整備計画について
Dr.植松のQ&A「RSウイルス」

- 7 トピックス**
<地域貢献活動>
湖北タウンホーム地域貢献事業『まちの学校』がスタート
縁の下の力持ちサン

- 8 障害者権利条約ってなに?**



かいづりエッセイ

VOL.40

「Remember Pearl Harbor!」が
教えてくれたこと

終戦から既に72年、日本人の大多数が戦後生まれとなつた今日では、大方は知らない?と思われますが、12月8日は日本が欧米を相手に戦端を開いた日です。

先日来日したアメリカのトランプ大統領が、訪日途上に立寄ったハワイで「Remember Pearl Harbor!」と演説されたとの報道がありました。

1941年12月8日にハワイの真珠湾を日本軍が攻撃して太平洋戦争が始まりましたが、日本の奇襲攻撃(在米日本大使館の東京からの暗号解読が手間取つて、宣戦布告が真珠湾攻撃より30分ほど遅れたとされています)を受けた当時のルーズベルト大統領の「Remember Pearl Harbor!」の演説が、アメリカの世論を一致結束して対日戦争に立ち上がらせたと言われています。

戦争が終わつて25年目の1970年(昭和45年)12月に訪米した私は歓迎夕食会に招かれ、通訳として同行してくれた在米日本人から、「真珠湾の日に日本人の歓迎会をするなど、考えられなかつたことですよ」と言われて、私たちが考える以上にアメリカ人のこだわりがあることを知らされた経験があります。

私は、終戦時に伊丹飛行場(現大阪空港)のそばに住んでいましたので、B29の空襲や艦載戦闘機グラマンの機銃掃射のこと、食糧難で飢えに苦しんだことなど、子どもでしたが戦中・戦後の出来事を鮮明に覚えています。

また、終戦から5年経つた1950年に朝鮮戦争が始まり、未だ連合軍の占領下にあつた伊丹は米軍の出撃基地になりました。毎日、戦闘機や爆撃機が離陸して上空で編隊を組むのを見上げていました。戦死し収容された将兵の遺体処理の作業が行われているなどのうわさも流れました。

トランプ大統領の演説は、北朝鮮を巡る緊張が高まる今日、戦前生まれの私たちの年代が語り継いでいかねばならぬことが沢山あることを、教えてくれたと思いました。まさに、“Remember”です。

エッセイストプロフィール

(社福)大津市社会福祉協議会理事

松井 佐彦さん

まつい すけひこ



1940年生まれ。1958年、新日本電気株式会社(現ルネサスセミコンダクター(株))入社、2000年3月同社退職。1971年より大津市議会議員、1983年より滋賀県議会議員。1993年より滋賀県労働者福祉協議会事務局長に就任したのを契機にボランティア活動などに取り組む。2017年まで(社福)滋賀県障害児協会監事。現在(社福)大津市社会福祉協議会理事、大津市ボランティアセンター運営委員。「おうみ少年少女合唱団」の運営には27年間取り組み、現在も事務局長。退職勤労者の地域活動として「おやじのたまり場～セカンドライフサロン～」を2007年3月に設立し、会長を務める。

特集

障害者にとっての優生学って何?! 新しい価値観を見つけていこう!

3回シリーズで「優生学」について考えていくシリーズの2回目は、前回立命館大学院先端総合学術研究科の松原洋子教授の講演内での「障害が社会をつくる」という『社会モデル』について、ユニバーサルの視点で具体的に『社会モデル』を実践されている株式会社サイレントボイスの尾中友哉さんにお話を伺いました。

プロフィール ● 1989年滋賀県大津市生まれ。聴覚障害者の両親の元、音声言語より手話による言語を先に覚え手話が当たり前の生活の中で成長。滋賀大学を卒業後、東京の大手広告代理店に入社。その後、「自分の体験を生かして聴覚障害者の地位向上に役立ちたい」と退職。2014年に「Silent Voice」を立ち上げ、企業用セミナー「DENSHIN」は株式会社で、聴覚障害・難聴児の就学児向け塾「DEAF ACADEMY」はNPO法人として運営。「聴こえないことを生かせる人を増やす」を目的に活動している。



株式会社サイレントボイス代表取締役
尾中友哉さん

Part.2 障害が社会をつくる社会モデルとは? ~実践者からのメッセージ~

尾中さんは耳の聴こえないご両親の元で育ったことが今の活動につながっていると思うのですが、子どもの頃はどのように周りを見ておられましたか。

自分の意識としては、両親が聴こえないのは当たり前だったので、他の家庭と比較するようなことはありませんでした。第一言語が手話だったんです。例えば家族旅行では、私が旅館の人に通訳するんです。そうして私が両親に対してできることは当然やるし、両親も子育ての範疇で私にできることはしてくれる。互いに協力し合って生活していくので、『障害』とか『障害者』という概念自体を私は持っていました。

『障害者』というのを意識したのは何時頃からですか。

中学生のときに、乙武さんの『五体不満足』というのが教科書に載っていて、そのときに『障害者』に関する記述とか、意味合いというのをはじめて知ったんです。そして、自分の両親は社会的には『障害者』なんだということを認識し始めました。それはどういうことかというと、『できない』ということなんです。人間誰しもできること、できないこと、得意不得意はあります。『障害者』とラベリングを貼られた人たちだけが『凄くできない人、みたいにわざわざ扱われている』ということが不思議でした。

『障害』と言う言葉を意識し出してご自身の中で変化はありましたか。

当時、自分自身は変わらないのですが、周りが『障害者』というフレーズを話すようになり、そんな周囲の認識を私が知ったということですね。本当に『障害者』に対して意識を持ったのは社会に出てからです。大学までは実家から通っていましたので、父や母の関係で聴こえない人に出会う機会もすごく多かったです。でも社会人になって東京で広告代理

店に勤めだしてからの2年間は『障害者』と言われるような人に一度も出会いませんでした。まして仕事を一緒にするなんて考えられなかった。どこか表舞台にいないというような印象が私にはありました。それからですね。今まで『障害者』を主観的に捉えていた部分が社会的な定義に変わってきました。

尾中さんの中で具体的に『障害者』をどう捉え出したのですか。

『障がい』は一つの概念だと思っています。10年前に母は喫茶店を開きました。母は自分ができない電話番は人に任せ、できることは自分でやるという環境を作り生き生きと働いています。健常者であっても不得意なことにずっとフォーカスされていたら輝きは持てません。広告代理店で働いた頃、先輩方は業界用語のカタカナの言葉を使われるのでコミュニケーション障がいが生じるんです。それは経験や年代の差で生じるコミュニケーションギャップなんですね。私は単に『違い』という視点で見ています。個人個人の捉え方で大きく変わっていくんだと思います。

例えばその『違い』、その差を縮めるために尾中さんのように小さい頃からみんなが手話を覚えていたら、特に聴覚障がい者を意識することはないということになりましたか。

『みんなで手話を覚えましょう』というときに、一人ひとりにコストがかかります。私は『良心』というのが根底にあって、一人ひとりにコストをかけていった先のバリアフリーは実現しないと思っています。「この方が皆んな楽ですよ」といった簡易化をどんどんしていくことでユニバーサルデザインとか、バリアフリーが実現するのではないかでしょうか。もう一つ大事なのは、ベルリンの壁の例にあるように、間に立ちふさがるものっていうのは、両面から対処していかない

と無くならないと考えているんです。反抗期の子どもに無視されるというのは、親の問題だけでなく、息子側の努力によって解決が早まるのがイメージできますね。一方的なものというのではなく、『障害者』といわれる人たちの努力も必ず必要になります。

将来的には介護ロボットで身体障害者の方も歩ける可能性もあります。ITやAI(人口知能)の導入で社会が変わり、人の考え方も変わっていくように思います。しかし『優生』という概念はなくなりません。どうしたら無くせると思われますか。

答えになるかわかりませんが、私が多くの人たちと違うのは、障がい者に圧倒的に助けられた経験があるということなんです。社会の参加者というのは、共存共栄と言いますが、障がい者から助けられた経験を持っておられない人が殆どです。「かわいそうな人たちだ」「助けてあげるべき人だ」とラベリングされた障がい者を、健常者から一方的に助けるという構図が今の社会なんです。私は生まれた時から『助けるし助けられる』という中で育ってきました。障がい者が社会参加するということは、障がい者が健常者を助けられるシーンをいっぱい作ることなんだと思っています。

例えば体が動かせない重度の障害の方にも『助ける』という概念は当てはまりますか。

難しい質問で、回答としては未熟かもしれません、相模原事件で施設のヘルパーさんが「自分が求められている場所がここであり、殺されたその人であり、私の生きがいだったんだ」と話しておられましたね。その言葉が答えではないかと思います。だから、かれらの存在意義をヘルパーさんのように受け止められる感性がもっと広がって欲しいと思っています。そうした教育が必要なんだと思っています。

聴こえないという個性を前向きに捉え、社会の中で強みとして生かそうという尾中さんの活動



無言語コミュニケーションプログラム「DENSHIN」の研修の様子。
音声言語以外の方法でのコミュニケーションが目的で、聴覚障害者がこれまでの体験で得た視覚的表現や觀察眼を生かして支援。対顧客や社員同士のコミュニケーションの向上を図る企業など全国各地で実施。



今年9月に始まった聴覚障害・難聴児の学力や協調を伸ばすための放課後デイサービス「デアカデミー」の様子。



ホワイトボードに貼られているポス

トットが社内の効率を考えたコミュニケーションボードとなっている。

【DATA】株式会社サイレントボイス <http://silentvoice.co.jp/>
大阪市中央区安堂寺町1-3-12 大阪谷町ビル4F
TEL.06-4302-5799 FAX. 06-4302-5798

『障害』は単に『違い』であること。その意識の持ち方が『優生』という概念を打ち碎いていくのではないか?!

そんな気にさせられる尾中さんの熱いメッセージ、ありがとうございました。

★次回も引き続き、Part.3「医学モデルとは?新しい価値観とは?」として考えていきます。

尾中友哉さんの活動の原点がここにある!



尾中さんのお母さん、幸恵さんが10年前から開いている「コーヒーハウス CODA」。幸恵さんの生き方が息子、友哉さんの今の活動に大きく影響している。

洋風料理を勉強した時のことで、イタリア人の先生がイタリア語で話されるので、耳の聴こえない自分も聴こえる人も同じ境遇の中で先生のしぐさや手元を見て一緒に学ぶことができた、というエピソードは友哉さんが指している『社会モデル』の原点を感じます。

▲ワインソムリエも取得している尾中幸恵さん。ワインバー&カクテルバーを月2回(土曜日)開催しているとのこと。

【DATA】「コーヒーハウス コーダ」
大津市末広町7-1 FAX.077-521-7760 9:00~17:00(月曜定休)

障がい者が『助ける』、『シーンを作る』ことが尾中さんの現在の活動になるわけですね。

母の喫茶店で灰皿を欲しいと言うお客様に、隣に座っていた常連のお客さんが灰皿を回して出してくださったんです。母に「助けてもらってばかりだったら、長続きしないよ」と言ったら、「1回助けられたら2回助けようと思っている」と私に言つたんですね。母は聴こえないけど見ることができます。フェイス・トゥ・フェイスは気遣いにつながっていくんですね。こうした障害を強みに変えていく母親のような人を増やしていきたい、というのが活動の原点になります。聴こえないから伸びた強みとか、失ったから得たものとか、人からは弱点と思われる部分で仕事を作るというのが、私の会社の大きい柱となりました。これがインクルーシブ(包括的)という考え方だと思うし、障がい者の本当の社会参加になっていくんだと思っています。『障害』は違いであり、その個性を十分に活かす社会をつくりたいというのが私の『社会モデル』になるのではないかと思います。

お知らせ

第20回湖北タウンホーム文化祭

10月14日(土)に文化祭が開催されました。今年のテーマは『ありがとう、感謝、いっしょに歩み続けよう』でした。このテーマは、利用者のみなさんといっしょに考えたテーマです。第20回という記念すべき回ということもあり、長浜市長や、月ヶ瀬地区の自治会長、長い間利用者さんを支えてくださった地域のみなさんからお祝いの言葉をいただきました。また、ステージ発表では、よさこい、猿回し、利用者さんの演奏によるハンドベル、職員による出し物等がありました。

今回、実行委員長を任せられたものの、「私にできるのだろうか」という不安とプレッシャーがありました。しかし、周りの職員さんから「みんなで支えるから大丈夫」というあたたかい言葉をかけてもらい、気持ちが楽になりました。当日の運営も、職員同士で相談して臨機応変に対処することができました。みんなの協力や支えのおかげで節目の文化祭行事を無事に乗りこえることができました。

20周年がゴールではなく、30周年、40周年が迎えられることを目標に掲げ、今年のテーマのとおり、みなさんといっしょに歩み続けていきたいです。



実行委員長 上田あすさ

平成29年度新卒者内定式

10月31日、穏やかな秋の一日、平成30年卒の皆さんの内定式を湖北タウンホームにて行いました。学業を優先するため、高校を卒業される方の同席はかないませんでしたが、内定式では、乗光理事長からお祝いの言葉、また二人の先輩職員からは、温かいメッセージが届きました。

たくさんある福祉施設のなかで、私たち滋賀県障害児協会の仲間になることを選んでくれた明るく頼もしい人ばかりです。入職までの数ヶ月…残り少ない学生生活です。実りある充実した時間を過ごしていただき、来春には6名揃って明るく出勤してくれることを楽しみにしています。



私たち先輩職員は、どうすれば学生から社会人へとスムーズに移行してもらうことができるのか、どうすれば上手く丁寧に分かりやすく研修を進め、

理解してもらうことができるのか、一生懸命考えて工夫をしていきましょう。また、公私ともに良きお手本となれるよう、素養を身につけていきましょう。

本部事務局長 大瀧幸夫



レポート

親子療育キャンプ

栗東のこんぜの里森の未来館にて、1泊2日の療育キャンプを実施しました。当日は台風の影響が心配されましたが、雨のみでしたので、開催することができました。

当日は、活動(ボイタ、作品作り、学生ボランティアによる歌の出し物、ハンドアーチェリー、ミュージック・ケア、太鼓演奏)があり、子どもたち、ご家族様とも大変楽しく参加していただくことができました。また、夕方の懇親会では、ご家族様同士はもちろん、職員、またボランティアの学生の方とも様々な意見交換をすることができ、とても有意義な時間を過ごせたと感じています。



▲太鼓演奏



▲ハンドアーチェリー



▲療育キャンプ参加者のみなさん

今回が初参加の方もおられ、大変満足されました。来年度以降も、ひき続き参加していただき、楽しい思い出を作る場として、また、情報交換の場やご家族様の息抜きの場ができる時間を作りたいと思います。

本部総務係 山川亮祐

平成29年度 第50回全国肢体不自由児者父母の会 連合会全国大会in京都市

今年度の全国大会はリーガロイヤルホテル京都にて前夜祭(情報交換会)が、大会式典・講演会が京都テルサにて開催されました。

『住み慣れた地域で、共生社会の実現!~誰もが排除されることのない全員参加型の社会へ~』をテーマに、全国より900名を超える参加者(資料参加者を含む)が集まりました。



▲式典にて挨拶する植松代表



▲基調講演の様子



大会式典の様子▲

のある人の母親という経験』と題された記念講演がありました。

講演では、障害のある当事者を含めた共生社会の実現に向け、これから社会に向けた課題と取り組みのヒント、親(母)(女性)当事者としてできることのアドバイス、これまで苦労や生き辛さを抱えてきた親も今を生きる存在であることなどが語られました。

来年度の第51回全国大会並びに第31回北海道ブロック福祉大会は、平成30年9月29日(土)～30日(日)に北海道函館市「函館アリーナ」にて開催されます。

父母の会 事務局 小川美美湖

インフォメーション

大津圏域グループホーム整備計画について

長年の構想であったグループホーム（以下、「GH」）の整備が具体化しています。今回は大津市障害児者と支える人の会からの強い要望もあり、大津市月輪に施設整備用地を購入し、GH整備に向けた設計協議を続け、10月には大津市の施設整備審査会で計画の概要を説明しました。これから国へ正式な補助金協議書を提出することになります。かりに最短で補助金の採択をうけることができた場合、平成30年度内に整備を完了し、平成31年4月には開所となる見込みです。

計画しているGHは、定員7名で短期入所の居室も併設する予定です。対象となる入居者は、重度重複障がいをお持ちの方で、医療的ケアを要する方もご利用いただけるようにしたいと考えています。空間仕切りの建具を活用して共有する住空間との分節化や連続化を実現したいと考えています。また木造にすること



▲グループホームイメージ図（LDK）

で建築コスト上のメリットだけでなく、おだやかで安らぎを感じることができます。

設計だけでなく、重度の方が住み慣れた地域で、いきいきと自分らしい暮らしが実現できるよう、職員配置や支援体制の整備に向けた協議を並行して進めています。

法人本部長 伊吹 学

Dr.植松のQ&A



Q

RSウイルス感染症とは どのような病気ですか？

RSウイルス感染症(respiratory syncytial virus infection)は、RSウイルスの感染による呼吸器の感染症です。感染してから2~8日、典型的には4~6日間の潜伏期間を経て発熱、鼻汁などの症状が数日続きます。多くは軽症で済みますが、重くなる場合には、細気管支炎、肺炎へと進展していきます。特に新生児、乳児、低出生体重児や、心臓や肺に基礎疾患があったり、神経や筋肉の疾患があったり、免疫不全が存在する場合には重症化のリスクは高まります。

RSウイルスに感染している人が咳やくしゃみ、又は会話をした際に飛び散るしぶきを浴びて吸い込む飛沫感染や、感染している人との直接の濃厚接触や、ウイルスがついている手指や物品を触ったり又はなめたりすることによる間接的な接触感染で感染します。

予防としては、流行時期でなくとも、乳幼児に日常的に接する家族等に咳などの呼吸器症状がある場合は、飛沫感染対策としてマスクを着用して接することが大切です。接触感染対策としては、子どもたちが日常的に触れるおもちゃ、手すりなどはこまめにアルコールや塩素系の消毒剤等で消毒し、流水・石鹼による手洗いか又はアルコール製剤による手指衛生の励行を行います。RSウイルス感染症にはワクチンも特効薬はありません。治療は基本的には対症療法（症状を和らげる治療）を行います。2016年の報告数は例年並みで10月頃がピークでしたが、今年は8月にピークがありました。もしかすると、今年はもう一度今冬にピークが来るかもしれません。

植松潤治先生プロフィール

湖北グリーフクリニック 院長

日本小児科学会専門医
日本小児神経学会専門医

日本リハビリテーション
医学会認定臨床医

平成元年滋賀医科大学卒業、平成8年同大学院卒業、医学博士。日本小児科学会、日本小児神経学会、日本リハビリテーション医学会、日本児童青年精神医学会、日本重症心身障害学会所属。介護支援専門員。

トピックス

地域貢献活動

湖北タウンホーム地域貢献事業 『まちの学校』がスタート

参加費
無料

パーティパーティ（JR虎姫駅構内）では、
11月から定期的に「まちの学校」を開催中です。

今の時代、インターネットで簡単に情報が入手でき、地球の裏側の人とだって、つながることができます。だからこそ、実際に会って話す時間を持つことが大事だと考え、「まちの学校」をスタートしました。

「まちの学校」は、障がいのある人もない人も、大人も子供も、行政の方も、学校の先生も、私たち職員も、地域住民も、その場に集い、みんなが共に学び語れる場所にしたい、という想いを込めて名付けました。

今年度は、11月4日の子育て世代のマネープランを第1回目として、計4講座を開催します。また、他にもこども110番の家の設置や、社協主催のひきこもり者の家族交流会「えんかふえ」の支援などもおこなっています。

今後は、地域の団体や、地元新聞社とも連携して、地域住民との交流が深まる活動を企画していく予定です。

湖北タウンホーム地域貢献コーディネーター
中山由美子

「まちの学校」が開かれる▼JR虎姫駅のパーティパーティ



これから開催する講座

第3回 1月20日（土）

「ペットの防災を考える～命を守る～」

第4回 3月10日（土）

「ここ豊かな老後を送るために
～エンディングプランとは～」

縁の下の力もちサン



寄付金

物品ご寄付

書き損じハガキを含む

ボランティア

【湖北タウンホーム】 岩口由紀、乗光秀明、松田功、伊藤幸子、池田誠造

【湖南ホームタウン】 乗光秀明、社会福祉法人 白蓮 もりやま作業所、吉岡ひとみ

【湖北タウンホーム】 長浜市人権擁護委員会、(株)ライフ、国友工業(株)、ワタキューセイモア(株)、北郷里民生委員、児童委員

【湖南ホームタウン】 マナビ滋賀(活動材料)、介護アロマサロンWai(アロマオイル等)、小島小百合、奥野喜久子、社会福祉法人亀鈴会 宮の里ミタスマモリアルホーム、草津市肢体不自由児者父母の会 会長 田中早苗

書き損じハガキが
ございましたら、
父母の会事務局まで
よろしくお願いします。

【湖北タウンホーム】 長浜老人クラブ連合会、おやじの会、赤十字奉仕団、虎姫地区民生委員、ハンドマッサージ「和」、浜竜太鼓、源希俱楽部、虎姫中学校吹奏楽部、長浜ギター・マンドリンアンサンブル、フレンス、花見月、モデラート、長浜藤井市長、木戸俊充、小崎満智子、伊藤ゆきゑ、古脇慶子、赤井淑子、横山博志、西川桂子、古山富美子、横田美穂子、デルロサリオ・恵美、藤井恵美、米田礼子、徳田智史、長野友香、東政輝、米田静江、北村マサエ、田邊太美雄、坂野滋、國友強、中村美瑠、神山咲希、岸田健、中嶋隆、佐治亜弥香、牧元和美、山路詔子、古池律子、石川浩輝、小崎光輝、村地司、田中琴乃、西川衛、北川美由紀、片山あかり、岡晃弘、川戸麻里、中川雄貴

【湖南ホームタウン】 吉身学区社会福祉協議会ボランティア部会ボランティア登録者、車椅子レクダンス矢車草の会、マナビ滋賀、レイカディア大学34・35・38・39期生、青人草、守山健康マージャン「すこやか会」、近代大正琴なごみ会、ききょう、森田孝子、村山晴美、饗庭夏生、吉岡信子、飯田勝栄、大江未子、茶谷正子、樋口操子、宮川明子、芝田規子、津田貞子、林田博恵、山田豊子、小窪紀枝、寺井美耶、美濃部文代、林皓子、大倉ミヤコ、古田一◆、吉田佐代子、演邊未歩、森井邦彦、園辰男、藤岡民男、石田義昭、北村美代子、田中潤子、高橋サチ子、勝部貞治、龍谷大学ボランティアセンター、龍谷大学ボランティアセプトルル、男性ボランティアの会G.A.G.、ドリーム18会、男性シニアグループうり坊の会、樂々20・キラッと22、チューリップ23、虹の会24、2525会、未来への辯26

障害者権利条約ってなに?

シリーズ第31回目

あなたの ライフスタイル、 かなえまじょう

イラスト:るーしー小林

“どこで誰とどんな生活をしたいか”は、障がい者の希望により、いろいろなケースが出てくるでしょう。そのいずれを選んでも、障がい者が地域に馴染み、日常生活に困らないように、周囲の人々はサポートやサービスの用意をしなくてはなりません。



障害者権利条約から部分的に抜粋してご紹介します。

第19条 b項

自立した生活及び 地域社会への包容

この条約の締約国は、全ての障害者が他の者と平等の選択の機会をもって地域社会で生活する平等の権利を有することを認めるものとし、障害者が、この権利を完全に享受し、並びに地域社会に完全に包容され、及び参加することを容易にするための効果的かつ適当な措置をとる。この措置には、次のことを確保することによるものと含む。

(b) 地域社会における生活及び地域社会への包容を支援し、並びに地域社会からの孤立及び隔離を防止するために必要な在宅サービス、居住サービスその他の地域社会支援サービス(個別の支援を含む。)を障害者が利用する機会を有すること。

滋賀県心身障害者扶養共済制度

この制度は、各都道府県が障がい者の保護者の相互扶助の精神に基づき、保護者死亡後の障がい者に終身一定額の年金を支給することにより障がい者の生活の安定と福祉の増進に資することを目的とします。加入者数は、口数ベースで、67,025人、年金受給者は、55,754人となっております。(平成28年度末現在)加入者・受給者の皆様、住所等の変更がありましたら、扶養共済窓口までご連絡ください。

扶養共済窓口

TEL:0749-73-3910 FAX:0749-73-3920



いつも元気でね健診



かいづり診療所では、障がいのある子どもを育てるご家族を対象に、血圧・血液検査などの健康診断を行なっています。保育・療育完備です。詳しくは下記までご連絡下さい。

お申込・お問い合わせはかいづり診療所まで

TEL:077-514-1715

編集後記

小学2年生のころ、ちょっとした躓きがきっかけで私は算数が苦手になりました。

根付いていた苦手意識を持ったまま現在に至ります。数字、計算、式を見るのも何だか辛い…大人になっても学生時代と全く変わらずなのですが、最近一念発起して算数を勉強し直すことにしました。

同じようなきっかけで算数の勉強をやり直した人たちの体験談をインターネットで見たところ、やはり小学1年生からやり直すことが良いと分かり、さっそく今年の7月から取り組むことにしました。

やり直しを始めてみて、いかに自分が授業を理解していなかったのかを思い知り、反省の日々です。夏の間に基本の参考書を1冊終了し、今は小学校高学年用「中学受験の前準備」用の参考書に進みました。

目指すところはセンター試験を受けられるまでの学力ですが…何年かかることやら。

(小川英美湖)

【編集人】

社会福祉法人 滋賀県障害児協会

〒524-0022 滋賀県守山市守山町168-1 かいづりハウス内
[TEL]077-514-1685 [FAX]077-514-1702
[URL]<http://www.open-mind.jp>
[E-MAIL]kaitsuburi@open-mind.jp

滋賀県障害児者と父母の会連合会

〒524-0022 滋賀県守山市守山町168-1 かいづりハウス内
[TEL]077-583-6395 [FAX]077-514-1702
[URL]http://www.open-mind.jp/about_fubo/
[E-MAIL]info2005@open-mind.jp

■ 1984年
8月20日 第三種郵便物承認

毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)発行
■ 発行人 関西障害者定期刊行物協会

大阪市天王寺区真田山町2-2 東興ビル4F

定価100円